

問1 平安時代の仏像や絵画に関する記録において、阿弥陀如来に救いを求める人々の姿や、極楽浄土への往生を願う様子が記されています。このような浄土信仰が当時の社会で広く受け入れられた背景と、その内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 滋賀公立入試 類似）

1. 社会不安や末法思想の広まりの中で、阿弥陀如来を信じ念仏を唱えれば極楽浄土へ行けると説いたから。
2. 武士の台頭に合わせ、厳しい修行や座禅を通じて精神を鍛えることが重視されるようになったから。
3. 法華経の経題を唱えることで、個人の救済だけでなく国家の安泰を実現しようと考えたから。
4. 遣唐使によってもたらされた最新の仏教教理を、天皇や貴族が国家を護るために学んだから。

問2 9世紀末に遣唐使が停止されたことなどを背景として、それまで取り入れてきた中国の文化を日本の風土や生活に合わせて消化し、洗練させた平安時代中期の文化を何というか。（2022年 京都公立入試 類似）

1. 国風文化
2. 北山文化
3. 東山文化
4. 天平文化

問3 平安時代、藤原氏が天皇の補佐として政治の実権を握った「摂関政治」において、天皇が幼少のときにその職務を代行する役職と、天皇が成人した後に政務を助ける役職の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 富山公立入試 類似）

1. 天皇が幼少のときは摂政、成人のときは関白
2. 天皇が幼少のときは関白、成人のときは摂政
3. 天皇が幼少のときは執権、成人のときは連署
4. 天皇が幼少のときは太政大臣、成人のときは左大臣

問4 平安時代初期、最澄が比叡山に延暦寺を、空海が高野山に金剛峯寺をそれぞれ開いた背景には、当時の仏教に対するどのような考え方の変化があったと考えられますか。最も適切なものを選びなさい。（2018年 和歌山公立入試 類似）

1. 奈良時代の仏教が政治に深く関わりすぎたため、都市を離れた山中で厳しい修行を行い、本来の信仰を取り戻そうとした。
2. 貴族だけでなく農民にも文字を教えるために、地方の拠点として山寺を建立し、全国に教育を普及させようとした。
3. 武士の勢力が強まったため、外敵から寺院を守りやすい険しい山岳地帯に拠点を移し、軍事を強化しようとした。
4. 遣唐使が廃止されたことにより、海外の情報を遮断して日本独自の山岳信仰のみを追求する新しい宗派を作ろうとした。

問5 平安時代末期、奥州藤原氏が三代にわたって栄華を極めた拠点であり、極楽浄土の様子を表現したとされる中尊寺金色堂が所在する現在の都道府県名として正しいものを選びなさい。（2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 岩手県
2. 新潟県
3. 三重県
4. 島根県

問6 平安時代において、それまでの大陸との交流方針が変化し、894年に遣唐使の派遣が停止された主な理由として正しい説明を選びなさい。（2016年 大分県公立入試 類似）

1. 派遣先である唐の国力が衰退し混乱していたことに加え、日本国内で独自の生活や感情に合わせた国風文化が高まっていたため。
2. 稲作の技術が日本国内で完全に自給自足できるレベルに達したため、大陸から新しい技術を導入する必要がなくなったため。
3. イスラム教の勢力が拡大したことで東アジアへの航路が遮断され、日本から唐へ渡ることが物理的に不可能になったため。
4. 平安京の建設に莫大な費用がかかったため、海外への使節派遣を中止して資本主義的な経済改革を優先させたため。

問7 平清盛が行った、自身の政治的・経済的な力を強めるための政策として、最も適切な説明はどれですか。（2015年 長野県公立入試 類似）

1. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を天皇に即位させることで、天皇の親戚として権力を強めた。
2. 全国に守護と地頭を設置することで、地方の武士や土地に対する支配力を強化した。
3. 独自の法典である御成敗式目を制定し、武士同士の領地争いを裁く基準を明確にした。
4. キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの最新技術を取り入れた。

問8 平安時代末期、藤原氏が摂政や関白として権力を振るった「摂関政治」を抑える形で、白河天皇が退位後も「上皇」として引き続き政治の実権を握った政治形態を何と呼びますか。（2015年 富山県公立入試 類似）

1. 院政
2. 執権政治
3. 親政
4. 武家政治

問9 日本の歴史における時代区分について、平安京に都が移されてから鎌倉幕府が成立するまでの期間を記録した資料があります。この「平安時代」と呼ばれる期間は、およそ何年間続いたとされていますか。（2017年 岐阜公立入試 類似）

1. 約200年間
2. 約300年間
3. 約400年間
4. 約500年間

答え合わせ・解説

問1	答え 1 社会不安や末法思想の広まりの中で、阿彌陀如来を信じ念仏を唱えれば極楽浄土へ行けると説いたから。	平安時代中期以降、釈迦の死から長い年月が経ち仏法が衰えるという「末法思想」が広まり、人々は現世の不安から逃れるために死後の救済を求めました。阿彌陀如来を信仰し念仏を唱えるという分かりやすい教えは、この社会不安に合致したため、阿彌陀堂（平等院鳳凰堂など）の建設や来迎図の制作へとつながりました。
問2	答え 1 国風文化	894年に菅原道真の建議によって遣唐使が廃止されたことで、中国との直接的な交流が減少しました。その結果、それまでの大陸文化の影響を残しながらも、日本の貴族の生活や感性に適した独自の文化が発展しました。これを国風文化と呼びます。
問3	答え 1 天皇が幼少のときは摂政、成人のときは関白	藤原氏は自らの娘を天皇の后（きさき）とし、生まれた子を天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）として権力を強めました。天皇がまだ若く判断ができない時期には「摂政」として、天皇が成長した後は「関白」という役職に就くことで、天皇に代わって実質的な政治の決定権を握り続けました。
問4	答え 1 奈良時代の仏教が政治に深く関わりすぎたため、都市を離れた山の中で厳しい修行を行い、本来の信仰を取り戻そうとした。	奈良時代の仏教（南都六宗）は政治と密接に結びつき、僧侶が政治に介入するなどの弊害が生じていました。平安時代に移り、最澄や空海は政治の影響を受けにくい山の中に道場を開き、厳しい修行を通じて国家の平安を祈る「山岳仏教」の形をとりました。
問5	答え 1 岩手県	中尊寺金色堂は、現在の岩手県平泉町に位置しています。当時の平泉は、京都に次ぐ日本第2の都市とも称されるほどの繁栄を誇りました。この地域は豊富な金の産地であったため、その経済力を背景に豪華な装飾が施された建物が建立されました。2011年には「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」として世界文化遺産に登録されています。
問6	答え 1 派遣先である唐の国力が衰退し混乱していたことに加え、日本国内で独自の生活や感情に合わせた国風文化が高まったため。	遣唐使の廃止は、菅原道真の建議によるものです。当時の唐は衰退しており、命をかけて渡海するリスクに見合う成果が得られにくくなっていました。また、これまでの中国文化の模倣から脱却し、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が発展し始めたことも大きな背景にあります。イスラム教の成立はそれより前の時代であり、航路封鎖が直接の理由ではありません。
問7	答え 1 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を天皇に即位させることで、天皇の親戚として権力を強めた。	平清盛は、かつての藤原氏が行った摂関政治と同じ手法を用いました。娘の徳子を高倉天皇のきさきにし、その子の安徳天皇を即位させることで、天皇の祖父（外戚）として強い発言力を持ちました。また、並行して大輪田泊（現在の神戸市付近）を整備し、日宋貿易を推進して経済力も蓄えました。
問8	答え 1 院政	1086年に白河天皇が位を幼い堀河天皇に譲った後、自身は「上皇」として政治を主導したことが始まりです。これにより、天皇の母方の親戚である藤原氏（摂関家）が政治を独占する状況を打破し、天皇中心の支配力を取り戻そうとする仕組みが形作られました。
問9	答え 3 約400年間	794年の平安京遷都から、1185年の平氏滅亡や1192年の源頼朝による征夷大将軍就任（鎌倉幕府の成立）までの期間を指します。この約4世紀にわたる長い期間は、貴族による政治から武士による政治へと社会の仕組みが大きく変化した時代でした。